

白い森小国から

こんなに春が待ち遠しく思った冬は今まで無かった…。
ようやく長かった冬が終わり、春がすぐそこまで来ている！
やっとオフロードシーズンが始まる！ やっぱ、土の上を走れるって最高だね！！

文／今 修
写真／K-PRODUCTS



4ヶ月ぶりの走行会

4月に入り小国町もようやく春めいては来ているが、相変わらず雪はちらついたりしている。今年は本当に異常気象だ！

3月の戦争のような忙しさも少しは落ち着き、今年初となる走行会を4月1日に仙台の四駆村で行った。土の上で走るのは4ヶ月ぶりの事なので楽しみにしている反面、感覚が鈍ってはいないかという不安もある。とりえず感覚を取り戻す事が今回のテーマと自分に言い聞かせ、熱くならないよう気持ちを抑えながら現地に向かった。

ここから仙台丸森町にある四駆村までは車で約2時間30分。以前は遠く感じていた四駆村だが最近では意外に近く感じるようになってきた。そう感じるようになったのもDBレーシング・小野氏の影響が大きいと思う。あの人の移動範囲は人間離れしている。

国道113号線、セヶ宿峠を抜けるときに少々雪が残っていた程度で、仙台に近づくにつれ雪は全く見えなくなっていく。同じ東北でも太平洋側は本当に雪が降らない。山もあるし海もある、しかも雪はそれほど降らないから住みやすそうだ。

到着早々、四駆村の村長が出迎えてくれた。村長と会うのは約一年振り、昨年の【トライアル ザ クラシック】以来だ。コース状況を聞き、いよいよ4ヶ月振りとなる土に足を踏み入れた。「おお～この感触！ 最高！！」。

土の感触を楽しみながらゆっくりとコース全体をウロウロするが、やはり4ヶ月のブランクは大きい。感覚がいまいち伝わってこないし、体の反応が悪い。しかもオレ、ちょっとビビリ入っているかも…？

コース頂上付近でコンディションのよい場所を発見。雪が降らない仙台とはいえ、まだまだ地面はマッディなところが多い。ヒルダウン、ヒルクライム、キャンパーにV字、コース的にはそれほどハードではないので感覚を取り戻すには丁度よい。午前中はここで練習走行することに決定！

新作リーフスプリング

昨年7月から新しいリーフの製作に取り掛かっている。今までに5セット試作したが、思い通りのリーフが未だ出来上がらず…。今回もサンプルとなるリーフを取り付けてきたけど、肝心の自分の感覚が鈍っているのでイマ

イチ分からん。ただ自分の求めている硬さより遥かにやわらかい…。あくまでも基本になるのが現在リリースしている“スパーネ”だ。現行モデルより、もう少しシリア側のレートを下げて、あとは全体的にインチダウンをしたリーフを考えている。それでもってリーフ構成は前後左右共に1枚で仕上げ、各部分にチップを埋め込み、リーフが上下する時の熱エネルギーをも利用する。そんなリーフが現実に行けるかどうかはわからないが、薄くて軽くて追従性がある丈夫なリーフが欲しい。

現在のトラックやダンプもリーフの枚数は昔の3分の2になっている。8枚構成だったリーフが現在は5枚でその仕事をしている。それだけ昔に比べて素材が良くなってきているのだろう。また枚数を減らす事により、軽量化を実現している。さらに金属疲労も極端に少なくなり、最近ではリーフが折れて交換するという事はほとんど無いという。

さて、先ほど話した1枚構成のリーフにチップを埋め込んで…なんて話だが、スマートフォンで何でもできる時代、その最先端技術を使えば夢のようなリーフを作る事も不可能ではないと思う。いつかそんな夢のようなリーフを20数年前のジムニーに取り付けて走ら

せてみたい。

午前中の走りは無理せずに慣らし程度で無事終了。今日の天気予報は午後から雪予報が出ているので、雪が降る前に4ヶ月分走らなければ！

午後からはロックセクションを使って走る事にした。しかし、これもまたタイヤを通す位置が微妙に合わず、なかなか思うように走れない状態。頭でも走りきった感じがイメージ出来ない。今までの経験上、頭でイメージ出来ない時は実際に走ってもクリア出来ない事が多い。そんな事を思いながら走っていると、やはり予想は的中！ 岩に弾き飛ばされて左フロントフェンダーをヒット。久し振りに練習走行で車を凹ませてしまった…。

ちなみに今回履いてきたタイヤは、ダンロップ・グラントレックMT2 195R16だ。岩場で遊ぶのであればもう少し外径が大きいタイヤを履いた方が楽しく遊べると思う。それと車高も、もう少し高い方が車体をぶつけにくい。

危険な構造変更

そうそう、車高で思い出したが先日1本の電話が会社に来た。どうやらパーツの問い合わせのようだが電話対応しているスタッフの顔が曇っている…？ しばらくするとスタッフが電話を代わって欲しいとの合図を送ってきた。そこで、電話を代わることに。話の内容は“シャックルだけで車高を上げたいので、パーツを見積もって欲しい”との事。しかも相手は素人さんではなさそうだ。

その人はちょっと興奮気味の口調だったので、スタッフとどんなやり取りをしたか大体察しがついた。“シャックルだけで車高を上げる”…何をどこから説明したらいいのか迷いながら、その間違っただけの方法を少しづつやんわりと、何故間違っているのかを説明していこうとしたが、全く聞いてはもらえなかったのだ。

その人曰く「自分は整備工場に勤めていて、過去に何台もシャックルだけでリフトアップした。さらに、その車両を構造変更してお客に販売している。シャックルで車高が上がらないなんて事は無い！」。

一般ユーザーであれば「それは間違っただけの方法です」とはっきり言えるのだが、相手はプロなので、そんな事を言えばプライドも傷つくと思い、すごく遠まわしに伝えようと努力した。そして「そんな車を走らせるとフラフラして危険ですよ」と言うと、「フラフラする時はステアリングダンパーを付けているよ！」と自信満々の返答。ありゃりゃ、ステアリング

ダンパーの使い方も間違っている…。

別にオレは知ったかぶりしたい訳でもなく、上から物を言うつもりも無いけど、そんな車両を販売していると聞いたからには黙っているわけにはいかない。ジムニーのイメージダウンにもなるし、何よりお客さんが心配だ。

だから電話の向こうでちょっと興奮気味で話をしている整備工場の人に説明をしようとしたら、電話を切られてしまった。以下の事を伝えたかったんだけど…。

シャックルだけでリフトアップは危険な改造だ。そして構造変更と言うのは、現在の構造(車検証に記載されている高さ・幅・全長・乗車定員など)を違う構造に変更すると言う事。確かに変更するパーツの強度計算書などの添付も必要だが、それはパーツの強度を証明するもので、そのパーツを取り付けて安全に走行できる事を保障するものではない。車高が上がるほどの長いシャックルを付けた場合、リーフは完全に逆反りして、地面からの衝撃を吸収するという本来の機能さえも奪う事になる。

また、路面のワダチなどにもハンドルが取られやすくてフラフラし、ブレーキング時にもハンドルが取られる危険な状態になる。ついでなので、最近多い車検時の注意点を書いておこう。平成19年10月以降の登録車(ジムニーの場合はJB23)の場合、リフトアップしている車両に関してはほとんどが車検を通らないのだ。

その理由は、直径30センチ、高さ1メートルの円柱物をフロントバンパーにくっつけた状態で、左端から右端まで、運転席からすべて確認できなければならないからだ。円柱物の一部でも確認できれば良いのだが、2インチアップしていると、丁度ボンネットのエアーダクトが邪魔をし、その円柱物を全く確認出来なくなるのだ。

「おれは座高が高いから見えるよ！」なんて屁理屈を言っても駄目。運転席の座面から何センチのところに目線を合わせてと言う規定もあるのだ。軽自動車検査協会に車両を持ち込んで色々計ったりしたのだが、2インチ以上リフトアップしている車両だと円柱は確認できなかった。

ただし、全ての2インチアップジムニーがそうなのかは、自分も確認した訳ではないのでわからない(k-proでは対策パーツとして正面と左側面が見える補助ミラーの製作を考えたのだが、作るのにメチャメチャお金がかかるので断念…。現在はフロント用のカメラとモニターを製作中で近日販売予定)。

それともうひとつはフォグランプの取り付け位置。こちらは平成18年1月以降の登録車が対象となる。フォグランプを取り付ける場合、側面から40センチまでの間にフォグランプの一部が入らないと車検は通らない。

今まではOKだった事が駄目になったり、その逆に駄目だった事がOKになったりする。その都度悩みが増える。何よりも一番困る事は全国の軽自動車検査協会の検査が一定で無いという事。ホント、どうにかして欲しい問題だ。

と、話は大分それてしまったけど、岩場に打ちのめされて、ボディだけではなくテンション的にもちょっと凹んだ。やはりいつも乗ってないと感覚は鈍ってしまう。そうは言っても東北の日本海側は、冬の間は雪が多く土の上が乗れない時が長い…。その分、雪が融けたら沢山走る！ 今年では地元小国町にもオフロードコースが出来るので、少しでも時間があれば走りにいける。ジムニーとオフロードは奥が深く、実際に走らなければわからない事だらけ。ジムニーに乗り初めて今年で12年だが、まだまだわからない事が多い。だからジムニーは面白いんだ！



練習走行で愛車を凹ませたのは久し振りです。やはり4ヶ月間のブランクは大きいな…。すっげ〜悔しいから、沢山乗って感覚を取り戻し、このロックセクションにリベンジだ！



帰り道に小原温泉で疲れを癒して、この日の走行会は終了。走行会は当然のことながらドラテク向上のために行っているが、山と一緒に飯を食ったり、帰りに温泉に浸かったりも楽しみのひとつ。ジムニー仲間最高だ！